

あつし塾長の

子のやる気 親の気づき

〇〇50



県立高前期入試までラスト3週間。先日行われた私立入試の夜、教室に集まった子たちの表情にやや元気がありませんでした。例年通り不合格になる子はいないはず。しかし、差し迫った本試験を目前に、選抜という審判に臨む美感が湧いてきたのでしょうか、

選 抜

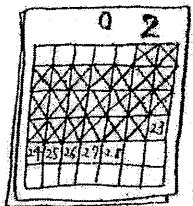
「駄目かも…」という雰囲気か漂っています。このようにゆとり教育世代になり、焦りとか、開き直るとか、がむしゃらとか、とにかく受験生に覇気が感じられないのです。

2006年2月、青森県立高校入試は前期複数受験制度になりました。県教委の案内には、2回の受験機会を設け「行きたい高校を主体的に選択でき挑戦できる」、後期に

「自分に克つ」成功体験を

受験へ情報と準備が必要

をつけられた子どもたち。かなりきつかったはずですが、確かに子どもたちの成長には挫折も必要です。小論文対して



by yoriko

う競争ですが、それは他人を負かすことではなく、実は「自分に克つ」ということ。子どもの成長段階では、挫折を乗り越え、成功体験を積み重ねることが大切です。志望校を決めかねている子、成績が伸び悩んでいる子。本試験までのカウントダウンの中、今年も子どもたちは日々自分と闘っています。

（畑山篤二志学塾長）

要でしょう。しかし、ご家庭も含め受験に臨む側にこの入試制度の正しい情報とその準備が足りなかったかと思えます。

理想を掲げてスタートした新入試制度の2回目の年に、第一志望の北高に後期で合格した塾生が体験談を寄せてくれました。「3月7日、前期合格発表の日。私は、あまりのショックにすべてが嫌になった。後期へ向け7日間を有効に使おうと思った。だが、口では言っても実際に行動することが難しかった。周りから見れば大げさなことだと思われ、人なのだろうか…」入試は「選抜」とい

日本
のつ
を母語
る。学
開設す
言葉の
ない子
の拡充
がって、

外

各地の
生徒の母
語講師が
必要な日
るよう個
専任の教
授業に必
導を行う
開設する
東京都
1校に1
設。区内
籍する中
出身など
2回、少
している
年間受け
同区立
中国から
の中学3
人が、マ
い形で教
ける。「1
んにち」
員が問い
日(じゅ
と自信な
生徒。「1
から、14

教 育

ブザーを役立たせて

6 犯ブザーの所持率は54%で、うち危険を感じてひもを引っ張ったこ

に

し、肩から降ろすとブザーも体から離れ、不審者に抱き付かれると、果もありません。その味で「見せつける」

うが、ひもの長さやまく調整してください。

子どもの安全科学

